

緑友会コミュニケーション誌

FRIENDS OF GREEN

フレンズ オブ グリーン

1995年9月発行

No. 88

青森県青森市平新田森越17-1

発行人 長尾 良宣 青森県印刷青年経営者会議

編集人 茨城印刷緑友会



第38回 全国印刷緑友会 長崎総会

 全国印刷緑友会

全国印刷緑友会

第21代 長尾会長就任

全国印刷緑友会は、全国46の青年印刷人各グループの相互信頼に基づく連携機関であり、同じ仕事を通じて喜びや悩みを分かち合う、心と心のふれ合う同志的結合体であります。また、総会、大会、セミナーの場から自ら求めてふれあい、互いに刺激し合い、協力し合いながら、経営・技術の情報交換と交歓を図り、自己実現の喜びに向かって自己革新・研鑽を積む場であります。



平成7年度の方針「友情と研鑽」

緑友会会員の皆様におかれましては益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、去る5月13日に開催されました第38回全国印刷緑友会長崎総会におきまして諸先輩多くいらっしゃる中、利根川会長のご推せんを頂き、そしてグループ長の皆様のご承認を頂きまして第21代会長に就任させて頂きました。

私、浅学非才の本当に微力でございますが、ご推挙を受けましたからには先輩の築いてこられた緑友の心を大切にして、更なる努力を重ね会の発展のため“会員相互の親睦を密にして楽しく、和やかに”をモットーに誠心誠意努めてゆく覚悟でございます。

ご承知の通り、今私達は、大変変化の激しい不透明な社会・経済環境の中に置かれております。そして私共印刷業界はプリプレスの電子化、あるいはマルチメディア等大変大きな技術革新の真っ只中におかれており、これ等の多くの課題にどう対応していけば良いのか大変難しい選択を迫られております。この様な厳しい時だからこそ緑友会の温かい友情とネットワークでこれ等のことを大いに語り合い、情報交換をし、大いに勉強する時ではないかと思ひます。

緑友会はよく道場と言われております。自己の感性の向上のため、自己実現のために、そしてひいては自分の会社の発展のために、まず自らが求め、楽しくふれあい大いに語り合いお互いに研鑽し合っていきたいと思ひます。そして青年印刷人として、緑友の心であります謙虚にして高邁な理想を求め、21世紀へ向かって新しいモラルを確立できたらどんなにかすばらしいかと思ひます。

どうぞ、会員の皆様からの厳しいご指導と温かいご協力、ご支援をお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせて頂きます。

第37回 全国印刷緑友会 長崎大会開催される

と き 5月13日(土)
ところ ホテルグリーンコースト長崎

前日よりの曇空が当日はすっきりと晴れ渡った五月晴のもと、九州は長崎において、第38回全国印刷緑友会長崎総会が全国より34グループ134名の参加で開催された。

長崎青年印刷人会の平山雅則君の開会宣言で始まった式典は、国歌斉唱、綱領唱和、来賓紹介、参加グループ紹介と続き、実行委員長の松尾一成君、全国会長の利根川政明君のあいさつの後、来賓の長崎県印刷工業組合理事長、岩永義人様よりお祝いのことばをいただき終了した。

総会議事は、城戸元会長の議長でスムーズに進行したが、今総会のメインイベントである新会長と役員改選の承認があった。新会長には、青森県印刷青年経営者会議の長尾良宣君が就任新たな常任幹事会と共に船出した。

長尾会長の緑友会に対する信念とともとれる「友情と研鑽」のテーマが発表されると、いよいよ新しい時代の幕明けを肌で感じる思いがひとしと伝わった。

総会の後、通常何か講演かトーキングタイムがとられていたが今回はオープンにして一般の人たちも参加したG長常任幹事会が開かれた。新任会長、常任幹事、それに各グループ長も新任が多く自己紹介から始まった。激しい議論の場面もあったが、議事はスムーズに進行した。(内容はG長常任幹事会報告の頁をご覧ください。)

懇親会は会場を屋外に移しプールサイドで行なわれた。少し風がつめたい気がしたが、緑友の熱気の中では心地良い風であった。最後は、予想通り服を着たまま水泳を強要される人とし

てめでたく松尾一成実行委員長が選ばれ初泳ぎを楽しんだ。最後まで笑顔のたえない和やかな一日でした。



第38回全国印刷緑友会 長崎総会を終えて

長崎総会実行委員長 松尾 一成

全国印刷緑友会の皆様、お元気でしょうか。

この度は、5月13日に開催されました第38回全国印刷緑友会長崎総会に、全国各地から34グループ134名の大勢の皆様にご参加いただき本当にありがとうございました。

先の仙台総会で仙台刷親会の皆様より総会旗をお預かりして以来、私たち長崎青年印刷人会一同、どのような総会にしたら印象深い新たな緑友の旅立ちができるものかと日々議論を重ね、せっかく長崎までお越しいただくのだから、日頃皆様がお目にかかれなような立地でなおかつ遊び心を十分満喫できるような開催地を探すことから始まりました。(長崎の人間はとにかく遊び好きなのです)

当日は好天とは言えないまでも、どうにか雨も降らず海も荒れず、大村湾クルージングでのエントランスが実行できました。これでくじけると一年間の計画が全て水の泡になってしまうので、全員が胸を撫で下ろす一幕でした。

運営面につきましては、不慣れなせいもあって、プログラムの進行などで皆様にはご迷惑をおかけいたしました。利根川直前会長の退任と、長尾新会長はじめとする新執行部の新たな旅立ちには海と船出という最高のシチュエーションを提供できたのではないかと自画自賛しております。

今回、総会を担当させていただき、私をはじめ、長崎青年印刷人会会員の全員が、多くの貴重な経験をし、緑友会というすばらしい仲間が全国に存在していることを実感いたしましたし、この『和』が必ずや明日の業界の地位を向上させるものと確信いたしました。

最後になりましたが今後の全国印刷緑友会の発展と次期山形総会のご成功を祈念いたしましてお礼のことばいたします。

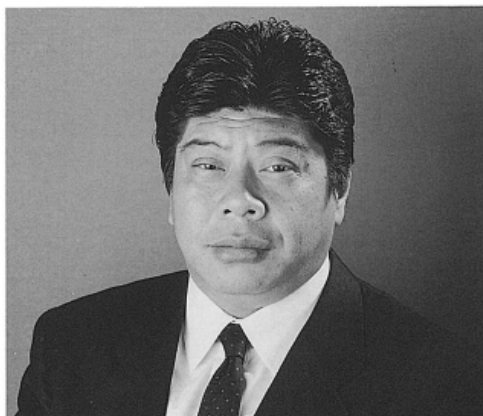
P S) 5月に初泳ぎをしたお陰で風邪をひくこともなく元気で仕事に励んでいられます。懇親会をする時プールのないところがベストです。ハ〜クション!



前会長挨拶

全国印刷緑友会
第20代会長

利根川 政明



全国印刷緑友会の皆様には、益々お元気で印刷業界発展にご活躍のこととお慶び申し上げます。先の第38回長崎総会も長崎青年印刷人会の皆様の心暖まる友情と、常任幹事、グループ長、参加メンバーの皆様のご支援ご協力で、次期長尾会長に引継ぎが出来ましたことを改めて御礼申し上げます。

「グループ活性化」を目標に掲げ、全国33グループを訪問させて頂きました。これも偏に各グループの皆様のご理解があったからこそ実現できたことです。総会・大会・セミナーに出席できる会員は限られた会員のみです。ならば私が各グループを訪問させて頂き少しでも緑友の理念を話すことが出来ればと思い各グループを訪問させて頂きました。その結果3グループが入会して頂き少しはお役に立てたかと思っております。

大分総会で会長に就任して以来、青森大会、福岡セミナー、仙台総会、大阪大会、名古屋セミナー、そして長崎総会と各イベントを主管して頂いたグループの皆様には本当に感謝しておりその感動はいつまでも忘れることが出来ません。

中村会長期に常任幹事の末席を汚して以来、竹田会長、古賀会長、竹内会長、城戸会長、白井会長と6期12年の常任幹事を務め、そして会長期の2年、14年間は私にとって一生の思い出深い歳月になり、全国の緑友のメンバーとの出会いが己にどんなにか刺激を受け、エネルギーを培い、自己実現、自己革新の起爆剤になり、結果、自社に高い欲求水準を導き、己のライフサイクルに大きく反映することが出来たのも「緑友会」と言う場があったからです。

緑友会は青年印刷人にとって、結果を求める場ではなく、ふれ合い、感性、情感満ちた場を自ら求めて会得し、エネルギーを培う共感仲間集団であり、自己実現の喜びに向かって研鑽を積む場と思います。

メンバーの一人、一人がイノベーションをしなければ緑友会自体が何かをしてくれる会ではないのです。まだ、総会、大会、セミナーに参加したことのないメンバーの皆様も多くいらっしゃると思います。是非、積極的に出席して下さい!!

最後になりますが、2年間何とか会長職を務められましたのも皆様のご支援、ご協力の賜ものと重ねて御礼申し上げます。

緑友会の益々の活性化と会員皆様のご健勝、会社のご発展をお祈り申し上げ会長職退任のご挨拶にさせていただきます。大変お世話様になりました。

平成 6 年度 緑友会事業報告

事業	日時	場所	参加数	主管
第37回仙台総会	平成6年5月21日(土)	作並温泉「岩松旅館」	32グループ 150名	仙台印刷親会
第37回大阪大会	平成6年10月15日(土)	大阪ベイトワ 「三井アーバンホテル」	41グループ 332名	大阪青年印刷人クラブ
第28回名古屋セミナー	平成7年2月18日(土)	名古屋「愛知芸術文化センター」	33グループ 261名	全国常任幹事会

平成 6 年度 常任幹事会・グループ長会議報告

内容	第1回 グループ長会議	第1回 常任幹事会	第2回 グループ長会議	第2回 常任幹事会	グループ長、常任幹事会合会議	第3回 常任幹事会
日時	平成6年5月22日(日)	平成6年7月15日(金)	平成6年10月16日(日)	平成6年11月19日(土)	平成7年2月19日(日)	平成7年3月11日(土)
場所	作並温泉 「岩松旅館」	大阪ベイトワ 「三井アーバンホテル」	大阪ベイトワ 「三井アーバンホテル」	長崎 「ホテルグリーンコースト長崎」	「名古屋国際ホテル」	「東京ガーデンパレス」
議事	1. グループ長紹介 2. 大阪大会について 3. 名古屋セミナーについて 4. 総務、会計、名簿、広報、渉外各委員会より報告 5. 各グループよりの連絡事項 6. その他	1. 仙台総会について (スローガン作成について) 2. 大阪大会について (OBに多く参加してもらうために歴代会長、歴代OB常任テーブルを用意する件) 3. 名古屋セミナーについて 4. グループ長会議開催について 5. 各委員会委員長より活動状況報告 6. その他 金沢セミナー、40周年大会 7. フリートーキング	1. 会長挨拶 2. 新入会グループ紹介 3. 第28回名古屋セミナーについて……7年2月18日(土) 4. 第38回長崎総会について……7年5月13日(土) 5. 第38回熊本大会において……7年8月4日(金)～5日(土) 6. 名古屋セミナー時におけるグループ長、常任幹事会開催について 7. 組織活性化、広報、会計、渉外各委員会より報告 8. 各グループより報告 9. その他	1. 大阪大会報告 2. 第29回セミナー開催地について 3. 常任幹事、グループ長へのアンケート報告 4. 緑友会手引、各イベント手引について 5. 次年度常任幹事選出について 6. 各委員会報告 7. その他	1. 名古屋セミナー報告 2. 神戸印刷若人会支援について 3. グループ長、常任幹事アンケート結果報告 4. 次期会長推薦について 5. 長崎総会について……7年5月13日(土) 6. 熊本大会について……7年8月4日(金)～5日(土) 7. 各委員会報告(総務、会計、書記、渉外、名簿、OB、広報) 8. その他	1. 名古屋セミナー報告 2. 本年度事業報告 3. 本年度会計報告 4. 神戸印刷若人会支援報告について 5. 次年度常任幹事候補について 6. 長崎総会について 7. その他

平成 6 年度 決算報告書

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	金額	摘要
前期繰越金	410,063	
会費収入	3,597,000	46グループ1,313名(入会:郡山、徳島、秋田)
受取利息	3,959	
合計	4,011,022	

支出の部

(単位:円)

科目	金額	予算額	摘要
総会補助金	400,000	400,000	仙台総会(6.5.12)
大会補助金	400,000	400,000	大阪大会(6.10.15)
セミナー補助金	300,000	300,000	名古屋セミナー(7.2.18)
機関紙「緑友」	927,000	927,000	フレンズオブグリーン(85号-86号-87号)
入会手引書印刷及びインフォメーション増刷費	264,000	400,000	
ビデオ補助金	300,000	300,000	仙台総会・名古屋セミナー(各150,000)
会議費補助金	200,000	200,000	
会計事務費	100,000	100,000	
総務事務費	100,000	100,000	
書記事務費	100,000	100,000	
渉外事務費	50,000	50,000	
OB・名簿事務費	50,000	50,000	
印刷通信費	120,000	120,000	
会長活動費補助	200,000	200,000	
予備費及び繰越金	500,022	329,063	
合計	4,011,022	3,976,063	

緑友基金明細

(平成7年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
定 期 預 金	5,850,332	大和銀行 お茶の水支店
受 取 利 息	88,670	大和銀行 お茶の水支店
現 残 高	5,939,002	

会員名簿 会計報告

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

(単位：円)

科 目	収 入	支 出	残 高
前 年 度 繰 越 金	279,286		
デ ー タ ベ ー ス 化 費 用		103,721	
普 通 利 息	859		
合 計	280,145	103,721	176,424

阪神大震災による神戸印刷若人会への義援報告

平成7年1月17日未明に発生した阪神大震災により、全国印刷緑友会のメンバーである大阪青年印刷人クラブ、神戸印刷若人会の多くの会員の皆様が多大な被害を受けました。

特に神戸印刷若人会の皆様は被害は想像を絶する大きな被害になり、直ちに全国各地の緑友のメンバーより神戸若人会へ支援の声が上がりました。その声は日を増すごとに大きくなり、2月18日に開催されました、第28回名古屋セミナーの会場において全国緑友グループからの温かい友情の結果として

総 額 ￥7,015,713- (3月31日現在)

を神戸印刷若人会へお渡しすることができました。全国緑友の皆様
の友情に改めて感謝申し上げます。1日も早い神戸印刷若人会の皆
様のご復興を願い報告させていただきます。

平成7年度 第38期事業計画(案)

全国印刷緑友会は、全国46の青年印刷人各グループの相互信頼に基づく連携機関であり、同じ仕事を通じて喜びや悩みを分かち合う、心と心のふれ合う同志的結合体であります。また、総会、大会、セミナーの場から自ら求めてふれあい、互いに刺激し合い、協力し合いながら、経営・技術の情報交換と交歓を図り、自己実現の喜びに向かって自己革新・研鑽を積む場でもあります。

平成7年度の方針 「友情と研鑽」

1. 第38回定期総会

主管：長崎青年印刷人会
日時：平成7年5月13日(土)
場所：ホテルグリーンコースト
長崎

2. 第38回全国大会

主管：熊本県印刷緑友会
日時：平成7年8月4日(金)・5日(土)
場所：阿蘇プリンスホテル

3. 第29回セミナー

主管：常任幹事会、金沢青年印刷人
クラブ
日時：平成8年2月17日(土)
場所：金沢市民芸術ホール

4. 機関紙「FRIENDS OF GREEN」発行

編集：茨城印刷緑友会
88号：平成7年7月発行
89号：平成7年11月発行
90号：平成8年3月発行

5. 常任幹事会

第1回 平成7年8月5日(土)
熊本
第2回 平成7年9月
東京(予定)
第3回 平成8年3月
東京(予定)

6. グループ長会議

第1回 平成7年5月13日(土)
ホテルグリーンコースト
長崎
第2回 平成7年8月5日(土)
阿蘇プリンスホテル
第3回 未定
※常任幹事会と合同開催もあります。

7. その他会の目的に必要な事項

平成7年度 予算(案)

(平成7年4月1日～平成8年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額	摘 要
前 期 繰 越 金	500,022	
会 費 収 入	3,560,400	46グループ 1,313名
合 計	4,060,422	

支出の部

科 目	金 額	摘 要
総 会 補 助 金	400,000	長崎総会 (7.5.13)
大 会 補 助 金	400,000	熊本大会 (7.8.4)
セ ミ ナ ー 補 助 金	300,000	金沢セミナー (8.2.17)
機 関 紙「緑友」	927,000	「フレンズオブグリーン」(88号・89号・90号)
入会手引書印刷及び インフォメーション 増 刷 費	400,000	
ビ デ オ 補 助 金	300,000	長崎総会・金沢セミナー (各150,000)
会 議 費 補 助 金	200,000	
会 計 事 務 費	100,000	
総 務 事 務 費	100,000	
書 記 事 務 費	100,000	
渉 外 事 務 費	100,000	
名 簿 事 務 費	100,000	
印 刷 通 信 費	120,000	
会 長 活 動 費 補 助	200,000	
予 備 費 及 び 繰 越 金	313,422	
合 計	4,060,422	

平成7年度 第1回グループ長・常任幹事会議

平成7年5月13日(土)
ホテルグリーンコースト長崎

●会長挨拶

●各常任幹事、各グループ長 自己紹介

●議事

1. 名古屋セミナー収支報告(木野瀬氏-別紙)

1) 当初補助金のBackを計画していたが、阪神大震災で登録人員の減少があり、不可能となった旨の説明があった。

2) 名古屋セミナー演劇ビデオ販売の件

収録ビデオ2本1組各グループに本日渡したが、撮影状態が悪いので、再度製作を行って販売することにした。

2. 長崎総会報告(松尾氏)

34グループ134名登録のお礼、収支報告は後日。

3. 熊本大会準備報告(大鶴氏)

400名規模を想定、登録費のうち同伴者20,000円とあるが、これは中学生以上で小学生は半額の10,000円、幼稚園は無料。

飛行機の手配 東京・名古屋・大阪便は座席もある程度確保している。

熊本空港から会場までピストン輸送します。

各地のお酒を送って欲しいという要望がありました。

各会OBへは直接参加を呼びかけるので、OB名簿を送って下さい。

4. 金沢セミナー準備報告 8年2月17日(土)

会場 金沢市民芸術ホール

宿泊 ホテル日航金沢を予定

セミナー概要

1部 チャールズ・シロー・イノウエ氏 日米出版事情・他

2部 PL法・産廃関係等クイズ形式で勉強を予定

会計担当幹事からは概算予算を連絡して欲しいという要望

他にセミナーを機に福井・新潟へのアプローチ、近隣グループへの協力要請がありました。

5. 山形総会準備報告(若月氏) 8年5月25日(土)

会場 天童ホテル

なるべくサクランボの季節に近い月末に設定しました。

会場は空港より約5分、山形駅からは20~30分の距離。空港と山形駅にバスを配車予定。

6. 神戸印刷若人会(岸氏)

義援金について平均15万円、最高で65万円をメンバーに配った。

現在行政機関の需要は低下している。

今後はメンバーの精神的不安の回復を先決と考えている。

各グループ、常任幹事へのお礼として、本日瓦せんべいを持参した。

緑友の友情に感謝している。

7. 茨城印刷緑友会

渋谷氏の件につき、お礼の言葉がありました。

8. 周年行事 他

1) やまなし印刷若人会

山梨大会 日程・会場共未定です。

他に会報「ワイング」を持参したので見て下さい。

2) ぎふ印刷翠陽倶楽部

活動記録マンスリーレポート持参、参考にして下さい。

3) 東京プロセス製版青樹会 25周年

8年3月9日 ホテルニューオータニ

4) 大分印刷若梅会

九州・山口青年印刷人大会 7年10月21日(土)

大分市コンパルホール

5) 山形印刷研修会

東北青年印刷人連絡協議会 7年9月2日(土) 山形

ご苦労様でした。

役員改選のあった今回の総会。常任幹事の交替で14人の方が常任の役をおりました。今回は3人の代表者にご挨拶をお願いしました。

常任幹事を終えて

長田 照久

全国の緑友の皆さん、お元気でしょうか。山梨の長田です。

先の第38回長崎総会において、常任幹事の大役を無事終了させていただくことができました。8年間という長い間、歴代会長を始め、常任幹事の方々や、全国の緑友の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

私と緑友との出会いは、やまなし印刷若人会の緑友会への加入と同時でした。14年前、中村守利会長から熱いお誘いの声をかけていただき、名古屋でオブザーバーとして参加したのが最初でした。あの時のワクワクするような、胸の昂まりを今でも忘れることができません。旅好きで、お祭り好きで、勿論お酒も好きな私にとって、それ以上に楽しいことは全国の大勢の人達と会えることです。気が置けない仲間と本音で語り合えることです。しかもみんな印刷という同じ仕事に携わっている同業者ばかりです。年齢の差も、会社の規模も関係なく、一人の人間として話せる、こんなすばらしい集まりはありません。しかも私は若輩にもかかわらず、常任幹事を8年間も務めさせて頂きました。お陰様でこの常任時代は私にとっては本当に楽しく、充実した経験をすることができました。しかし常任幹事としては全く無力で、頼りない、ただ背がデカイだけの役立たずだったかなあと今になって反省しています。また、はからずも白井会長の時には総務幹事、そして利根川会長の元では会計という身に余る大役を仰せつかった訳ですが、頼りない補佐役で申し訳ございませんでした。特に利根川会長の時には、健康を害し、会計の仕事が務まらず、大変ご迷惑をかけてしまいました。あの時には、東京の大内さんが私に替わって会計の仕事を肩代わりしてくださり本当に助かりました。心から感謝申し上げます。

緑友会の仲間はみんな人と会るのが好きで、緑友に行けばあの人に会える、こんな話ができるという楽しみを抱いて、遠くから出てくるん緑友に行けばあの人に会える、こんな話ができるという楽しみを抱いて、遠くから出てくるんですね。義理で出てくる人はあまりいないでしょう。最初お付き合いで来た人も、次からは自分から行きたいと思うようになる、それが緑友の輪であり、仲間なんですね。そして、その千数百名の会員が一人でも多くのなかまを作れるような場作りや、機会作りのためのお世話役として働いているのが常任幹事なのです。そういう意味では、私は自分ばかりが楽しんで常任としてのお世話役や、パイプ役をあまり果たして来なかったようです。そのせいかどうか、会議のたびに東京の厳しいお方にいつも怒られていた様な気がします。しかしこれも緑友だからこそ味わえる貴重な経験なのではないでしょうか。

風さわやかな五月の長崎で、第21代会長の長尾丸が無事、力強く船出しました。新内閣には若いメンバーが大勢加わり、その顔ぶれは大変頼もしくすばらしい方々ばかりだと思います。新常任の皆さん、長尾会長をバックアップして、大いに頑張ってください、期待しております。私もこれからは、一会員として、今まで以上に緑友を楽しむつもりでいます。勿論、長尾新体制には全面的に協力を惜しみません。最後になりましたが、任期中お世話になった、常任幹事の皆様に改めて御礼申し上げます、ありがとうございました。

ひとつの言葉で企業は変わる

名古屋而立会 西川 誠也

「お～い、西川君、あんなに粉ふいちゃ、刷れんよ・・・。」と、緑友に出る様になって数年目に、突然茨城の城戸さんから注意された。名古屋のディーラーの仕事で、わが社でオモテ面を印刷して、各地でウラ面を刷る仕事だった。帰ってすぐ、工場長に話をしたら、効率だけ

ご苦労様でした。

役員改選のあった今回の総会。常任幹事の交替で14人の方が常任の役をおりました。今回は3人の代表者にご挨拶をお願いしました。

常任幹事を終えて

長田 照久

全国の緑友の皆さん、お元気でしょうか。山梨の長田です。

先の第38回長崎総会において、常任幹事の大役を無事終了させていただくことができました。8年間という長い間、歴代会長を始め、常任幹事の方々や、全国の緑友の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

私と緑友との出会いは、やまなし印刷若人会の緑友会への加入と同時でした。14年前、中村守利会長から熱いお誘いの声をかけていただき、名古屋でオブザーバーとして参加したのが最初でした。あの時のワクワクするような、胸の昂まりを今でも忘れることができません。旅好きで、お祭り好きで、勿論お酒も好きな私にとって、それ以上に楽しいことは全国の大勢の人達と会えることです。気が置けない仲間と本音で語り合えることです。しかもみんな印刷という同じ仕事に携わっている同業者ばかりです。年齢の差も、会社の規模も関係なく、一人の人間として話せる、こんなすばらしい集まりはありません。しかも私は若輩にもかかわらず、常任幹事を8年間も務めさせて頂きました。お陰様でこの常任時代は私にとっては本当に楽しく、充実した経験をすることができました。しかし常任幹事としては全く無力で、頼りない、ただ背がデカイだけの役立たずだったかなあと今になって反省しています。また、はからずも白井会長の時には総務幹事、そして利根川会長の元では会計という身に余る大役を仰せつかった訳ですが、頼りない補佐役で申し訳ございませんでした。特に利根川会長の時には、健康を害し、会計の仕事が務まらず、大変ご迷惑をかけてしまいました。あの時には、東京の大内さんが私に替わって会計の仕事を肩代わりしてくださり本当に助かりました。心から感謝申し上げます。

緑友会の仲間はみんな人と会るのが好きで、緑友に行けばあの人に会える、こんな話ができるという楽しさを抱いて、遠くから出てくるん緑友に行けばあの人に会える、こんな話ができるという楽しさを抱いて、遠くから出てくるんですね。義理で出てくる人はあまりいないでしょう。最初お付き合いで来た人も、次からは自分から行きたいと思うようになる、それが緑友の輪であり、仲間なんですね。そして、その千数百名の会員が一人でも多くのなかまを作れるような場作りや、機会作りのためのお世話役として働いているのが常任幹事なのです。そういう意味では、私は自分ばかりが楽しんで常任としてのお世話役や、パイプ役をあまり果たして来なかったようです。そのせいかどうか、会議のたびに東京の厳しいお方にいつも怒られていた様な気がします。しかしこれも緑友だからこそ味わえる貴重な経験なのではないでしょうか。

風さわやかな五月の長崎で、第21代会長の長尾丸が無事、力強く船出しました。新内閣には若いメンバーが大勢加わり、その顔ぶれは大変頼もしくすばらしい方々ばかりだと思います。新常任の皆さん、長尾会長をバックアップして、大いに頑張ってください、期待しております。私もこれからは、一会員として、今まで以上に緑友を楽しむつもりでいます。勿論、長尾新体制には全面的に協力を惜しみません。最後になりましたが、任期中お世話になった、常任幹事の皆様に改めて御礼申し上げます、ありがとうございました。

ひとつの言葉で企業は変わる

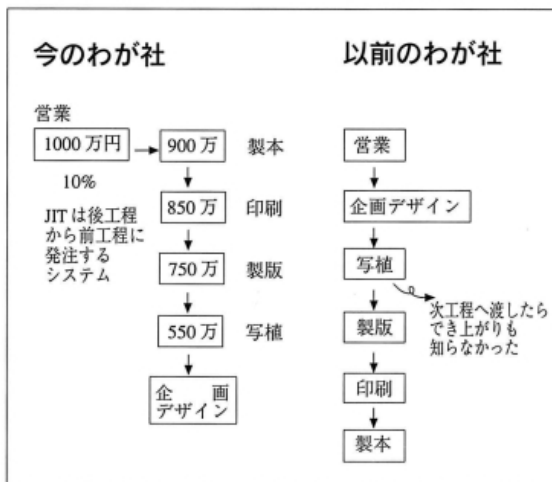
名古屋而立会 西川 誠也

「お～い、西川君、あんなに粉ふいちゃ、刷れんよ・・・。」と、緑友に出る様になって数年目に、突然茨城の城戸さんから注意された。名古屋のディーラーの仕事で、わが社でオモテ面を印刷して、各地でウラ面を刷る仕事だった。帰ってすぐ、工場長に話をしたら、効率だけ

を追求しすぎてきた結果、わが社は刷本を納めれば、仕事が完了したと勘違いして、後加工する人の事を全ったく考えていなかった事に気がつかせて頂いた。

ちょうどその頃、お客様から J I T (JUST IN TIME) の後からの進捗管理の指導を受けた。看板方式は、効率を追求した悪の論理の様に感じていた私達も、その思想を聞いて気持ちを新たにした。それは、営業が受注すると、後工程から前工程に仕事を発注するしくみだった。

今までのわが社では、前工程から後工程に仕事の流れがゆくので、ややもすると、版下ができ上がると、少々切り貼りが多かろうと、裏白防止、二枚差し防止、ロットナンバーがついてなくても、仕事は終わったと勘違いしていた。でもこの J I T では、印刷のしやすい製版は、どうあるべきか、丁合ミスのない台紙づくりは、印刷は、どうしてももらいたいかと、前工程に依頼する思想が芽ばえた。



今、わが社では、製本のしやすい方法を、印刷に依頼し、印刷の品質が保てる様に製版を考え、台紙を作る、後からの進捗管理ができる様になってきた。

緑友の楽しさは、気軽な会話の中から、普段気づかない、見過ごしてきた事柄を、違った角度から見、考えてみる時と空間を与えてくれる自分にとっては、貴重な体験の場でした。

名古屋而立会は、「旅は直接より曲線が面白い」(どこから取ってきたコピーだが)との合言葉で、全国出かけてますが、年3回の道中、

その地での思い出がかけめぐります。

短い6年間緑友会、名古屋而立会、あのひと言注意して頂いた城戸さんありがとうございました。See You AGAIN!!

常任幹事を終えて

沖縄印刷若潮会 糸洲 昇

昭和60年5月水戸総会で、古賀君(福岡印刷若葉会)が全国印刷緑友会々長に選任されたとき、小生も監事として緑友会の仕事をお手伝いすることになりました。以来、竹内君(札幌青年印刷人の会)、城戸君(茨城緑友会)、白井君(金沢青年印人クラブ)、利根川君(文京緑友会)の歴代会長のもと監事。幹事として、総会、大会、セミナー、常任幹事会、グループ長合同会に出席し、北海道から沖縄まで、全国を駆けめぐり、各地の志を一にする友と大いに語り、遊ぶ機会を得ることができました。

第20回の東京大会に初めて登録して以来、セミナー、総会と登録をし、各会の周年行事に参加させていただき各地を訪れました。それぞれの思い出を列挙するにはあまりにも多すぎて出来ませんが、訪問させていただいた会の皆様の暖かい心づかいは身にしみており、緑友の友情にいつも感謝しております。これからも事情が許すかぎり、大会、セミナーに参加をさせていただき、緑友の精神である「自己研鑽」と「友情」について、尚一層、学ばせていただきたいと念じております。

多くの先輩や友に啓発され「自己研鑽」とを思いつつ馬齢ばかりを重ね成長がなかった事、多くの友に何もしてあげられなかった事が“悔”として残るのみです。

全国緑友会のますますの発展を祈り、長崎総会で選任された長尾会長はじめ常任幹事、監事の皆様に大いなる夢を托し、退任する監事の惜別の辞とします。

【Drupa'95 の感想】

文京緑友会 白井 慶吾

コンピュータ・トゥ・プレート (CTP)

CTP (Computer To Plate) はいかにも時流に乗っているように見えるが、実際には世界で100セットも売れていないようだし、稼働しているものは50セットもないらしい。つまりこのCTPの効果を享受できる印刷会社は、過去に十分なコンピュータシステムの経験があり、プリプレスがすでに相当なレベルでデジタル化されている会社だけだ。いままでアナログで処理している印刷会社が「この際CTPを導入して一挙にデジタル化しよう」としても不可能だろう。各メーカーもアナログで作成した版下台紙を取り込む為の大形フラットベツトスキャナーを販売しているが、そんなことをしても効果はない。しばらくは特別な需給関係のカラー印刷以外、一般印刷会社の生産設備としての利用は難しい。

■デジタルカラー印刷機

現在世界中にあるデジタルカラー印刷機はIndigo250台、DCP-I200台、GTO-DI200台といわれている。それぞれに長所と短所があったが、Drupa'95に出展されていたデジタルカラー印刷機は、どれもかなり改善されていた。

特にIndigoのE-print 1000は予想以上に改良されHigh Definition Imaging (水平解像度2400dpi250線)、4-Fi Color (CMYK+CMYで印刷することにより彩度を上げる)、6色/4色等高品質な液体インクを使う「デジタル・オフセット・カラー」と呼ばれるにふさわしいものになった。その上、Mobius Publisher (両面輪転印刷)は輪転印刷できるタイプで、出版物印刷をターゲットにしている。また Omunius

Packaging Pressは厚紙や透明フィルムに印刷できるだけでなく、デモでは飲料用の缶に直接オンデマンド、ジャストインタイムに印刷していた。Indigoは、印刷ユニットを販売するので、被印刷物が何であろうと組み合わせれば色々なアイデアがユーザーから創造できる。

オンデマンドの例として「～さん。あと3ヶ月であなたのかわいい娘の～さんの誕生日ですね。記念にこの安全で丈夫な自転車はいかがですか」といったDMから、オリジナルジグゾーパズル、新郎新婦の写真に出席者の名前の入っ



た乾杯用ビールの缶、建材・装飾用印刷物等個性のある印刷物が色々と考えられるとのスピーチは興味深かった。

ゲーテンベルクの発明は、活字を使った印刷だった。それは美しくデザインされた文字を規則正しく並べ、読みやすく装飾し、何枚もの複製が同じ品質で作成できることが革命的だった。しかし、On Demand Printに代表される近代の印刷では、同じものを複製することはもはや

印刷の定義ではなくなったのである。

■新しいフィルム製版の登場

いわゆるドライフィルムと呼ばれる、現像液を使わない製版フィルムを作成する装置が多く展示されていた。A2、B2のフィルムの表面に強力なレーザーを照射して網点を形成させる方法で銀塩写真方式に匹敵するシャープな画像を再現していた。給水や排水、廃液処理の設備を必要としないので、オフィス環境にマッチしていると同時に、現像液管理の煩わしさから開放され、品質の安定性が高く、設備にかかるコストもかからない事などメリットが多い。PCの編集システムとこの装置をゴロゴロと押していけば、どこでもすぐに製版ができるのもアイデアを膨らませる。印刷会社独特の現像液のにおいや暗い職場など労働環境の改善に着目し、地球環境のことも考慮するようになったことは実に喜ばしいことである。

■もはやCEPSは無かった

5年前にハイエンドと呼ばれていたカラーシステムは姿を消した。Crosfieldは「当社はイメージセッター会社です」と自認していたし、代わって高速な処理をするミッドレンジ（もはやミッドレンジとは言わないが……）のシステムが台頭してきている。中でも注目されるのは、DALiM Imaging Softwareが面白い。シリコングラフィックスのハードにC++で書いているソフトで、日本ではコムテックスが扱い、IGASに向けて日本語化の最中だそうだが、どこまでできるかによっては注目株である。Quark XPosureも画像をJVCが開発したオブジェクトレイヤー方式で処理しQuark XPressとのリンクができることを強調していた。またオーストラリアのWright Technology社のWright Designというソフトは、live Pictureよりもさらに高速で機能も充実している。またこのソフトはWindowsに対応していることを追記しておきたい。

■デジタルカメラは市民権を得た

トータルなデジタル化に必須である写真を撮影するカメラがやっと実用化の雰囲気になった。1992年にカメラバックスタイルで登場した

時から比較すると、露光のスピードが著しく向上した。これならファッションショーの取材もフラッシュを使って撮影できる。現状のカメラは、デジタル本来の操作性と機動性をワンショットでCCDに取り込むことができる新聞報道用カメラと、より高品質な撮影ができるスタジオカメラに分類できる。

600万画素の高い解像度のデジタル画像で撮影し、撮影後1分間で編集用システムで処理できるスピードも考えると、「間違いなく」今後の商業印刷物用の撮影はデジタルカメラになるであろう。

■Macの成長は止まっていた

Macに代わる生産機材を期待していたが、DTPはまだMacが多かった。しかし、印刷ジャーナリストのジャスパート氏は、以後3年間で形勢は完全にWindowsと逆転すると述べていた。アメリカでもイギリスでもMacを設備した会社は少し悔やんでいるが、デジタル化の経験は大きな利益であったからMacには感謝しなくてはならないと思っている。しかし、その他の業務に利用されるPCはほとんどWindowsあるいはUnix系だったし、機械の稼働管理や受注管理、インキ濃度管理、面付け刷版管理などのアプリケーションはWindowsであった。Drupe'95の会場案内をディスクットで（CD-ROMではなかった）販売していたが、WindowsバージョンだけでMacバージョンは無かった。ヨーロッパの人はMacやWindows以外のOSを待っているのではないか？と思うくらいだった。

結論として、これからも進歩していくCTPもデジタルカラー印刷機も、その選択は、「早くて汚い印刷物」か「遅くても綺麗な印刷物」か、「投資はいくらになるか」しかない。特にデジタルカラー印刷機のコストパフォーマンスに至っては、メーカー側が決めるものではなく、ユーザーが決めるものであることを忘れてはならない。

DEGITAL を普通に 考えたらこうなった

神奈川正和会 佐藤 達也

1: 僕とデジタルのコラボレーション

僕がデジタルに足を踏み入れたのは色々な偶然が重なっている。大学3年の夏、暇を持て余していた僕は、父親に言われるがままにモリサワ電算写植のセミナーに駆り出され、貴重な青春の夏を大阪で過ごした。大学3年の冬、叔父の経営していた会社の電算写植のセクションの部長が突然退職し、有無も言わさぬ状況で最後の大学1年間は会社のために費やし、20歳そこそこで自分の親より年上を含む12名程制作管理までも見るはめになってしまった。そして25歳の春いろいろあった末、父と共に会社を設立しデジタルパブリッシングを目指して現在もばたばたした毎日を送っている。

常に、僕は印刷業界という社会には今でも反体制派だと思っている。しかし後ろ向きな物ではなく相当前向きな物になりつつある。いい加減な納期管理・雑駁なスケジュール管理・新しい技術に対しての保守的な対応・・・僕が印刷業界に入ってから疑問と、常に面倒くさがり屋の自分の性格がコラボレートした結果がデジタル化になっているのである。

電算写植との出会い

今から思うと電算写植は印刷業界を30度ぐらいいは変えたかもしれないけど、天地がひっくりかえる程のシステムではなかったのではないかと感じることもある。勿論デジタルと言うことを前提にしての考え方ではあるが、電算写植は文字通り写植の電算化であってデジタル化までは進まず、殆どの会社がフル・ページネーション化を推進できず、棒打ち電算写植で終

わってしまったのではないだろうか。

僕は、ない頭をたたきながら徹底的にフル・ページネーションができるマシンと信じ電算写植を使っていた。この時の、考え方は現在の環境の作り方やことんまでマシンを信頼し環境変化に対応させる等とても役に立っている。電算写植を単純視せず最終的には使い切った、そんな出会いがひとつのポイントになっている。

Macを購入してはみたものの

1990年に当社では第1号のMacを導入してみた。きっかけはよく覚えてないが単なる新し物好きという事ではないかと思う。最初はMac = デザインと簡単に考え、ちょっとデザイナー気取りの子を入れれば稼働してくれるのではないかと、非常に甘い甘い考えで・・・当然ながら大失敗、何しろ待てど暮らせど全く動かしている気配が無い。そのうち、邪魔物扱いを始める始末。

この時期の教訓は、「若い子が興味をもってそうな機械でも、機械を買い、場を与えてそして待っていてもなにも出てこない」というあたりまえのことであった。

第1次Macモノクロ環境編

設立時よりプリプレスの環境に重点を置いていた為に、製版の設備をまるで持たぬ者がいきなりカラーの世界に足を踏み入れるのは失礼と考え、まずはモノクロ環境で肩慣らしをしました。まだまだ、品質に不安なスキャナーやこれぞとばかりに時間のかかるセッター、そして素

人集団の我がMacオペレーター貴兄のことを考えれば当然の成り行きではなかったかと思われます。

この時は、Macで作業するものは絶対に版下は作成せずにすべてフィルム出力と限定し、制作工程を削減したことは、作業者にとって今までに無い知識を与えたのではないかと思う。

第2次Macカラー環境編

Macを導入して4年目の1994年に先ず電算写植システムを廃止し、共に版下制作及びGデザイナーからノリと Cutter を取り上げ、営業・制作・デザインからなるプロジェクトチームを組み本格的なカラー環境への対応を仕掛けた。スキャナーの選定・セッターの選定そしてMacの環境設定等、半年かけてじっくり選り抜いた。この時期より平行してオンデマンド印刷の情報も取り入れ、導入も前提とした構築を考えるようになる。

もうここまで来ると、後戻り出来なくなる不安の中にも自分でもプレーキの効かなくなるデジタル化への欲求に対し、益々意欲が沸いてくるようになる。

オンデマンド印刷導入

よくオンデマンド印刷の話をするとなんにはどんな商品が当てはまるのか、というナンセンスな質問が聞かれる。まだ始まったばかりのこの市場でもあり、今まで自分たちがこの市場に対して無視していた（ニーズがあったにもかかわらず。）ツケやそれらを他産業に持っていかれている現状に気付いていないのである。

基本的に今の時点でマイナスフェロモンを発することは、印刷業界特有の保守的発想に他ならないと思っている。絶対に間違えてはいけませんが、このオンデマンド化は印刷の技術の発展ではなく、クライアントのニーズを優先したマシンであるという事である。「印刷通し数」「校了後の納期の長期化」「製版工程のコスト拡大」どれをとっても印刷会社の論理にお客様を巻き込んだ結果である。マルチメディア社会のキーワードは、ネットワーク・オンデマンド・

デジタルであり、印刷業界は過去においてメディアの最先端を走っていたにもかかわらず、TV・VIDEO等のメディアに先を越され、それを傍観していた歴史があります。このキーワードを解くためにも、デジタル環境の整備とオンデマンド化は必要不可欠と考えます。

オンデマンド化を実現して

1995年6月にスタートしたオンデマンド印刷『E-Print1000』は僕たちにまた新たなチャレンジ精神ととても新鮮な空気を取り入れてくれた。

営業面においては、女性営業にオンデマンド印刷だけの知識をたたき込み商店やレストランを片っ端から廻らせSHORT RUNの需要が本当にあるかを市場調査をさせています。まだまだ開拓中ではあるが「うーん ニヤニヤ・・・」といった感じである。

Macサイドにおいても、いままでセッターでのフィルム出力までが仕事の範囲であったのが最終印刷までが範囲となったことで、印刷をより身近に感じることができるようになり仕事の協調性がいっそうとれるようになった。

とはいえ問題がまったく無いわけではないが、常に前向きなチャレンジ精神と新しいことに挑戦するパイオニア精神で未来に向かって進んでいきたいと考えています。

今回緑友会の情報ネットワーク推進委員に選ばれたことを光栄に感じ、実体験をもとにみなさまにご報告をしていきたいと思います。よろしくおねがいいたします。

リレーエッセイ

長尾会長の方針「友情と研鑽」 研鑽は情報ネットワーク推進委員が主役
友情の主役はこのリレーエッセイがつとめます。

F of G ネットワーク

札幌青年印刷人の会 伊藤 文二

「お父さん。カッコいい！」

突然の男の子の声に、それまで緊張していた会場の雰囲気ながこみました。

数年前、学生時代の仲間、先輩・後輩、現役の学生、そして家族も集まって開いたミニコンサートの、最初のプログラムが始まった時のことです。

最高齢はその年還暦を迎えた大先輩、決して容姿端麗とは言えない男ばかりのコーラスの姿に見とれて声を上げたとはとても思えませんでした。普段何気なくつきあっている自分の父親が、予想だにできなかった心地よいハーモニーの中にいるのを発見して、感激のあまり声が出てしまった、と私は思いました。(勿論、愚息を桜にして会場に忍び込ませていたわけではありません。)

そもそもこのコンサートを開こうと思ったのは、現役学生が4年に一度行う東京演奏会にOB賛助ステージと称して在京のOB連中が押し掛ける事を、私たちが学生時代からずーっと続けていたわけですが、その練習を終えてから帰宅し子供や奥さんと顔を合わせた時、

「今日のお父さんすっきりした顔をしている」

「心なしか輝いているみたい」

等と思わぬ歓迎を受け、とても気持ちが良かった、と同期に指揮者をやっていた仲間がふと漏らした言葉を聞いたことがきっかけでした。その男は現在某大手都市銀行のある県庁所在地の支店長を務めてはおりますが、その時は本店にいて、例の不正融資事件の後始末にさんざん苦勞し、心身ともに疲れ果てていた頃、その練習に誘われ無理に時間を作って出かけた時の事だったと言うのです。

日本を揺るがすような大事件に巻き込まれなくても、ほぼ同じような疲労感を感じて生きて

いるのは、我々団塊の世代に共通して言えることだし、それではみんなでその喜びを共有してみようじゃないか、と昔のマネージャー気質が頭をもたげ、地元のOBに声をかけ、現役、とりわけ家族の協力も得、聴衆も含めて100人足らずの正にミニコンサートではありましたが、冒頭の一言が示すように、その夜は私も含めて仲間全員が「カッコいい」「輝いている」お父さんになったことと思います。

このコンサートはその後3年程続いてはおりますが、テレビの前でリモコンと夕刊とを抱えて居眠りをこいている日常の繰り返しでは、メッキがはがれるにはさほど時間を要せず、持続力とはみに衰えている昨今、輝きの度合いにもかげりが見え始め、新たな企画でまた巻き返そうか、それともここは若い連中に任せて、斬新な趣向で魅了のお手伝いをしてもらおうか、趣味の世界でも世代交代に直面している今日この頃です。

いずれにしても、電気の力を借りず、肉声・アカペラで歌うことは、体全体に音が響き抜けるような感じで、しかもそれが多くの仲間とのハーモニーの中で実感すると、その快感は果てしなく広がる。恍惚の瞬間です。全共闘世代で、なかなか学問に浸りきれなかった私の学生時代は、野中の一軒家に住んでいたのをいいことに、家に帰ってまでも「親不孝声」を張り上げて歌いまくった4年間でした。

私の出身ですか？大きな声では言えませんが、小樽「唱歌」大学です。

次号の担当は

坂本 敬亮さん(郡山凸凹クラブ)
株坂本印刷所 専務
郡山市喜久田町菖蒲池 14-26
TEL 0249-59-1234
FAX 0249-59-2345